

第2回 結城市環境審議会 議事概要

日 時 令和2年6月19日（金） 午後1時30分～2時30分

場 所 結城市役所本庁舎2階 第1会議室

出席者 環境審議会委員：9名出席（1名欠席）

・稲葉 敏次 委員， 谷田 庄司 委員， 安藤 泰正 委員
伏木 正進 委員， 小篠 真孝 委員， 野口美知子 委員，
萱野 隆英 委員， 鈴木 こと 委員， 中田 芳江 委員

※欠席者：石川 浩 委員

事務局（生活環境課）：5名

・飯島経済環境部長， 生井課長， 清水課長補佐， 塚田主幹， 松浦主幹
コンサルタント（メタルリサイクル株）：2名

・新井， 小林

会議次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 題
（1）第2次結城市環境基本計画素案について
4. その他
5. 閉 会

会議資料 『会議次第』

『結城市環境審議会委員名簿』

『第2次結城市環境基本計画素案』 … 資料1

『今後の策定スケジュールについて』 … 資料2

会議経過

1. 開会（司会：清水課長補佐）

・事務局の司会進行により開会。

※開会に先立ち，市の組織機構改革に伴い，生活環境課は市民生活部から経済環境部へ改編され定期人事異動により事務局に変更が生じたことから自己紹介をさせていただいた。

2. 会長あいさつ（稲葉会長）

- ・結城市環境審議会を開催するにあたり，一言ご挨拶申し上げます。
昨年度末から現在まで，新型コロナウイルス感染症について自粛などが続いてきましたが，緊急事態宣言が解除され，油断はできませんが，落ち着いている状況です。本日このような会議を開催することを喜びながら，皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。本日はご苦労様です。

3. 議事

- ・結城市環境審議会条例第6条の規定に基づき，稲葉会長が議長となり，議事が進行された。

【議題（1）】第2次結城市環境基本計画素案について

- ・会議資料1『第2次結城市環境基本計画素案』に基づき説明を行った。
- ・事務局説明後，会長から委員に対し，意見・質問等を求めたところ，以下のとおり意見・質疑が出された。

（伏木委員）

- ・P33の環境美化パートナーシップ事業活動グループ数について，基準年は41団体であり，最終年は40団体となっている。現状の市のホームページを見ると39団体と記載がある。私の見間違いなのか。また，目標値が下がる理由は何か。

（事務局）

- ・市ホームページに記載のある団体数は平成30年度の数値である。素案に記載のある団体数は令和元年度（昨年度）の数値であるため，1年間で2団体増加したことになる。また，最終年の目標値が現在から減少することについては，担当課から回答があった数値であり，現状の団体を継続することが前提となる考えである。減るということではなく，現状維持と捉えていただきたい。前回の計画では，実施できない目標があったので，実施できる目標を立てていただくように依頼した結果である。

（伏木委員）

- ・昨年度までに登録があった2団体はどこなのか。

（事務局）

- ・把握しておりません。担当課に聞いて，後日お知らせする。

※伏木委員の質問についての回答

令和元年度に登録があった2団体

- ・日本無機株式会社結城工場
- ・新田間町自治会

(伏木委員)

・P26 重点戦略の知るとあるが、市の活動や市民の環境保全活動など市内の活動を知ってもらうことが主なテーマになっていることと思う。しかし市だけの環境基本計画であるならば、環境破壊の原因をもっと知ってもらうことが必要ではないか。環境破壊の要因・原因について、理解を深める「知る」という活動はどこにあてはまるのか。無いならこのことについて考えていただきたい。

(事務局)

・環境破壊の原因として挙げられるのが地球温暖化問題である。その要因・原因が分かりづらいというご指摘だと思う。表現方法について検討させていただきたい。

(伏木委員)

- ・P36 低炭素に対する市民の取り組みについて、「新築時のエコハウス化，ネットゼロエネルギーハウス（ZEH）を検討しましょう」と記載があるが、環境省の「エコハウスモデル事業」を見ると、理想的なことが書いてあり、提案が記載されているが、農地付き住宅もエコハウスの一つとして入るとなると、家庭菜園はやるかもしれないが、農業をすることが可能なかどうか。農業の集約化や大規模化の方にシフトするべきではないか。実現可能なことを記載していただきたい。
- ・マイクロプラスチックごみの問題について、もっと踏み込んだ方がよいのではないか。レジ袋だけではなく、洗剤や化粧品にもマイクロプラスチックが入っている。また、日本で生産されている塩の9割にマイクロプラスチックが含まれているというデータが示されている。私たちは毎日食塩を摂取しているので、マイクロプラスチックを毎日摂取していることになる。したがってマイクロプラスチックに対する取り組みもあればよいと考える。

(事務局)

- ・新築時のエコハウス化，ネットゼロエネルギーハウスについて検討していただきできれば取り組んでいただければという内容である。市民に対して情報提供をしていきたい。また農地付き住宅ですが、畑をつくるということは考えてはいない。あくまで、農業に関しては、集約化や拡大化を検討しつつ、農地の基盤を整備し、人口減少による耕作放棄地も増加する懸念があるので、やりやすい農業を進めていくという目標を掲げている。
- また、マイクロプラスチックについて、レジ袋だけではなく、委員ご指摘のように、わかりやすく具体的に掲載していきたい。文章だけでは把握しづらいため、イラスト等も掲載していければと考える。

(伏木委員)

- ・P11 (4) 人口について、市の人口と世帯数が記載されているが、年齢別の構成があると良いと思う。高齢者問題や人口減少問題があり、世帯数の増減は若い世代の方が多いか少ないかで今後変わってくると考える。年齢別のグラフがあれば環境問題を考える上で重要ではないか。

(事務局)

- ・現在、市の総合計画の改定も行っているところである。伏木委員からご提案のあったことについて反映していく。

(小篠委員)

- ・分野別目標の展開について、各活動指標に中間目標と最終目標が記載されているが、それぞれ根拠を検討しているのか。

(事務局)

- ・活動指標は、庁内ワーキング会議を開催して、令和元年度を基準とし、中間目標と最終目標を関係各課で調整・検討をした結果を記載している。

(萱野委員)

- ・アンケート調査で地球温暖化問題が一番関心・興味があるとのことだが、何をどうすれば良いかというのが、市民目線から言うといまひとつわからない。太陽光を設置する、グリーンカーテンを促進するという行動自体は分かるが、それによっての効果が把握できない。もう少し効果がわかるようになれば良いと思う。また、以前は消防署が「火の用心」と書かれたステッカーなどを配布して意識するようにしていたように、何かステッカーを作成して各世帯に配布し、環境問題に関する意識付けをした方が良いと考える。広報も利用して啓発も行った方が良い。

(事務局)

- ・高齢者から子どもまで、だれもがわかりやすく、また関心を持ってもらうツールとしてステッカーはどうかというご意見だが、この計画の中で、まずは市民の皆様が計画自体を知っていただくように、分かりやすく見やすくし、PRの場を増やしていく。その中で広報活動としてキャンペーンなどを実施しているが、ステッカーを配布することも考えられる。あくまでも施策を実施する時に何をするか、何を配布するかを検討していく。

(伏木委員)

- ・P33 結城駅年間乗車数ですが、この環境基本計画に記載するものなのか疑問に思う。

(事務局)

- ・公共交通機関を利用する人口の増加が目的であり、高齢化で自動車を運転できない方の増加が予想される。この指標を達成するには、JR水戸線と宇都宮線のつなぎの問題が考えられ、支社が違うためそれぞれに要望をしていく。年間乗車数が減少すると本数の増加が見込めないため、利便性の向上のためには、乗車数を増加させることが不可欠である。企画政策課は公共交通の利用を増やすという観点で事業を実施しているため、計画に記載させていただいた。

(伏木委員)

- ・提案ですが、公共交通機関の利便性を高めるのであれば、小山市・結城市・筑西市の3市で第三セクターをつくって、小山駅から下館駅まで今の電車の空いている時間を走らせるような機関をつくることができないか。そうすることによって利便性が上がるのではないか。そういった検証をしてから施策を記載するなら分かるが、現時点で乗車人数を記載するのはいかがか。

(事務局)

- ・現在、第三セクターは考えていないと思われる。駅と巡回バスの乗り入れ問題についても、企画政策課で新しい公共交通システムを考えている段階であるため、委員からのご意見ご指摘を踏まえ検討していく。

(稲葉議長)

- ・各グラフについて単位が違っているのが見受けられる。たとえばP33の一般公用車の保有台数の単位が年間「人」ではなくて、「台」ではないか。

(事務局)

- ・記載ミスである。再度全体に誤字・脱字がないが改めてチェックする。

(稲葉議長)

- ・P44の水洗化率について、本来であれば水洗化率が上がるのが普通ではないか。なぜ減少しているのか。

(事務局)

- ・水洗化率については、公共下水道の水洗化率である。人口減少の問題が根底にある。公共下水道の接続件数は増加するが人口が減少するといったことが起こるため、水洗化率が減少する目標値になった。このような説明しなければ分からないような項目は、コメントや注意書を入れるなどしていきたい。

(安藤委員)

- ・自然林が減少していると感じているが、平地林面積を見ると変わっていないがわたしが見る限り大きく減っていると思う。また、大きな木が最近少なくなってきた。木の保存という観点では考えていないのか。木が何本あるのかなどの調査は、やっていないのか。木を守ることは重要であると考え。市では生け垣を増やそうという取り組みを実施していると思うが、生け垣は実際に増えているのか。市の地下水の減少という問題が起きているのか伺いたい。

(事務局)

- ・平地林の減少については、太陽光など再生可能エネルギーの関係で森林を伐採して太陽光パネルを設置する場所が増加している。農政課では森林法により規制は

あるが、1ヘクタール未満であれば申請するだけで伐採できるので、今後森林は減少することが予想させるが、農政課では現状維持を続けるという意向である。

続いて、大きい木が何本あるかというご質問だが、現状は把握していない。そういったご意見があったのでイラストや写真等で表現できればと考える。生垣に関しては、客観的に見ると増えていないのではと考える。本来であれば、防風林の役割も果たす生垣だが、維持管理の面でも問題がある状況である。増減について今後調べさせていただきたい。次に地下水の減少だが、こちらも把握していないので、調べさせていただきたい。

※安藤委員の質問についての回答

市内に大きい木が何本あるのか

現在把握できておりません。以前に大桑神社のけやきは天然記念物に指定されており、県の補助金を活用して周辺の間伐を実施した経緯があります。

生垣の増減について

城跡周辺地区（結城市本町周辺）計画で、塀は生け垣が望ましいとしてます。（城下町の街並みを配慮）その地区限定で生垣をつくる方に助成する制度がありますが、生け垣数の増減は把握できておりません。

地下水の減少について

県の調査結果が公表されています。結城市は調査対象になっておりませんが、近隣では八千代町と古河市が調査対象になっており、地下水の減少による沈下が確認されました。地下水の減少は井戸の水量にも関係しますので、関係課と注視していきます。

（伏木委員）

- ・事業者の取り組みの中で横文字が出てくる。例えばP50の「P R T R制度」とか「B C P」など、事業者の方は分かるかもしれないが、「ふるさと体験学習」というテーマは、どこの部門がどういう学習をしているのか、アスタリスクで注釈として記載した方がわかりやすい資料になると思われる。

（事務局）

- ・ご指摘のとおり、分かりやすくまた見やすくするということは、とても重要になるので、記載していきたいと考える。今後は、解説・資料編として掲載していく。

4. その他

- ・会議資料2『今後の策定スケジュール』に基づき説明を行った。
素案の策定及び計画案の作成が遅れてることに伴い、スケジュールの見直しを行った。当初5月中に素案をまとめ、6月に計画案の作成を予定していたが、計画案の作成は7月になる。今後具体的な説明や方向性を示した文章を記載し、項目にあった写真とイラストを入れていく。その後7月下旬に庁内ワーキング会議を開催し、施策や目標数値に誤りがないか、再度見直しをする。

次回の策定委員会は、8月の上旬に開催する予定である。9月下旬に再度審議会を開催し、計画案の協議と諮問。10月中旬から11月中旬にかけてパブリックコメントを実施するので、説明させていただく。その後、11月下旬にパブリックコメントの結果を踏まえ計画案の再修正、1月中に答申という流れになる予定。

5. 閉会

以上で「第2回結城市環境審議会」を閉会